

株主のみなさまへ

ISK REPORT

第97期 事業報告書

2019年4月1日から
2020年3月31日まで

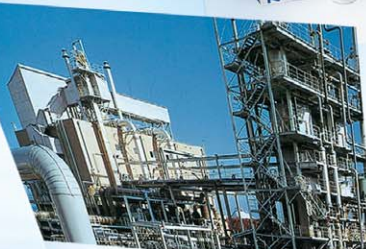
証券コード 4028

これからもみなさまへ
100th
SINCE 1920
2020



石原産業グループ基本理念

- 「社会」、「生命」、「環境」に貢献する。
- 株主、顧客・取引先、地域社会、従業員を大切にする。
- 遵法精神を重んじ、透明な経営を行う。



石原産業は、おかげさまで
本年9月10日に100周年を迎えます

TOPICS

100周年記念サイトを公開しました。



<https://www.iskweb.co.jp/100th/>



1920

創立100周年を迎えるにあたり、
今日まで支えてくださいました株主さまをはじめ、
すべてのステークホルダーのみなさまに、
心より感謝を申し上げます。

株主のみなさまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
ここに当社の第97期事業報告書をお届けいたしますので、
ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 田中 健一



ポイント

- 無機化学事業は、酸化チタンの輸出が期を通じて低調に推移し減収
- 有機化学事業は、農薬販売で欧州向けの殺虫剤が大きく伸長するも、主力市場において他社剤の取扱いを取り止めた影響などで減収
- 損益面では、酸化チタンの操業調整による固定費負担増やチタン鉱石価格の統騰、農薬の研究開発費の増加などで減益

当期の世界経済は、米中貿易摩擦の長期化と中国経済の減速に加え、英国のEU離脱交渉の難航など不安定な国際情勢を背景に全体として減速基調となりました。日本経済は、輸出や生産に弱さが見られながらも、雇用や所得環境の改善を背景に堅調な個人消費が景気を下支えしましたが、消費税増税後には陰りが見られるなどで景気の停滞感が高まりました。また、期末にかけては、新型コロナウイルスの感染拡大により世界各国の経済活動に混乱が生じ、内外の景況感が急速に悪化しました。

当社グループは、2018年度より「第7次中期経営計画」をスタートさせ、既存事業の守りをしっかりと固めつつ、新たな成長に向けた攻めの取り組みを推進しています。初年度である2018年度は、酸化チタンをはじめとする無機化学事業の堅調な需要を背景に、業績は中計目標を大きく上回りましたが、2年目となる当期2019年度は、想定を超える事業環境の悪化に直面し、業績は一転して中計目標を下回りました。

無機化学事業では、酸化チタンは、アジアを中心とした需要の減退と市況の低下に加え、主原料であるチタン鉱石価格が高止まりするなど業績は悪化しました。有機化学事業では、主力農薬の販売は、欧州向けの殺虫剤が大きく伸びるなどプラス面があったものの、世界各地で発生した異常気象の影響を受けるなどで業績は伸び悩みました。

この結果、当期の売上高は1,010億円(前期比53億円減)、営業利益は61億円(前期比51億円減)、経常利益は前期の為替差益が差損に転じるなどで53億円(前期比57億円減)、親会社株主に帰属する当期純利益は23億円(前期比63億円減)となりました。

なお、創立100周年を迎えるにあたり、これまでの株主のみなさまのご支援、ご協力に感謝し、1株あたり8円の記念配当を実施させていただくことといたしました。これにより2020年3月期の期末配当は、普通配当12円と合わせて1株あたり20円とさせていただきます。

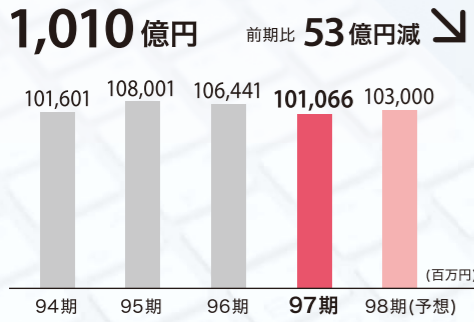
次期の見通しにつきましては、新型コロナウイルス感染症により先行き不透明感を増していますが、その影響を一定程度考慮し、売上高1,030億円、営業利益49億円、経常利益47億円、親会社株主に帰属する当期純利益31億円を見込んでおります。本見通しの想定為替レートは、米ドル108円、ユーロ118円です。

今後さらに新型コロナウイルスの感染拡大と長期化が予想され、当社グループを取り巻く環境にも悪影響をおよぼしかねません。この難局を乗り越えるため、当社グループ丸となって目標達成に向けて取り組んでまいります。

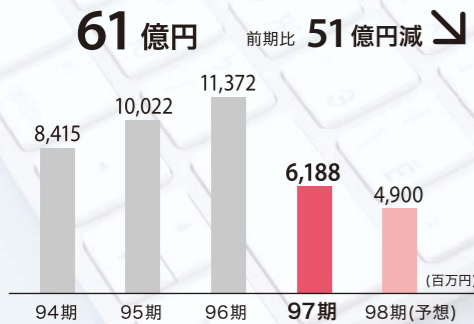
株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

財務ハイライト

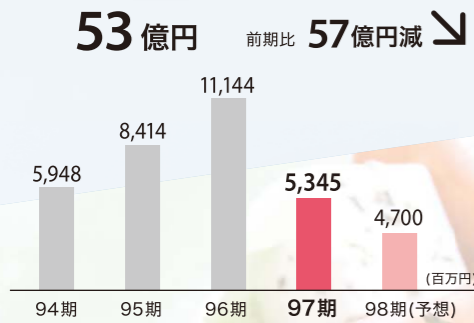
売上高の推移(連結)



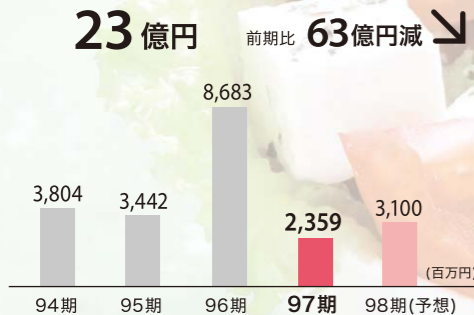
営業利益の推移(連結)



経常利益の推移(連結)



親会社株主に帰属する当期純利益の推移(連結)

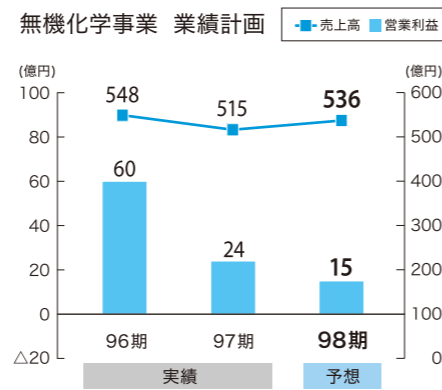


(注)第94期における数値は、過年度決算訂正を反映しております。

主要なセグメント情報 <今後の見通し>

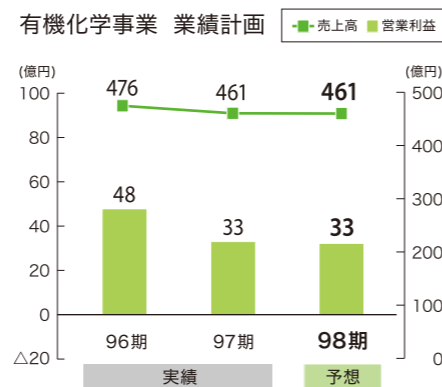
無機化学事業

98期売上高 536億円(予想)
98期営業利益 15億円(予想)



有機化学事業

98期売上高 461億円(予想)
98期営業利益 33億円(予想)

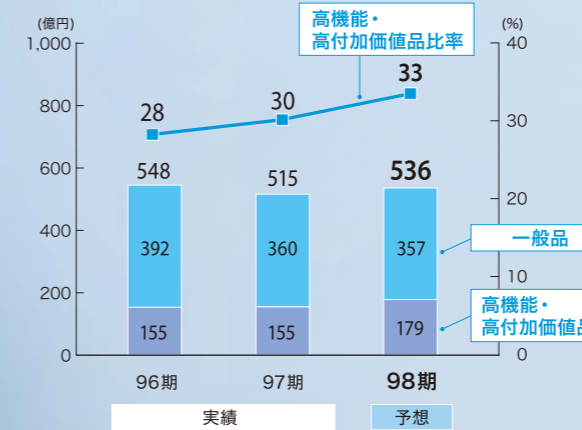


国内トップシェアの酸化チタンは高付加価値品を海外で展開

酸化チタン

- チタン鉱石価格は依然高値で推移、製造コスト上昇
- 超耐候性顔料や遮熱顔料、艶消し塗料用顔料など高付加価値品の拡販に向けて取り組む

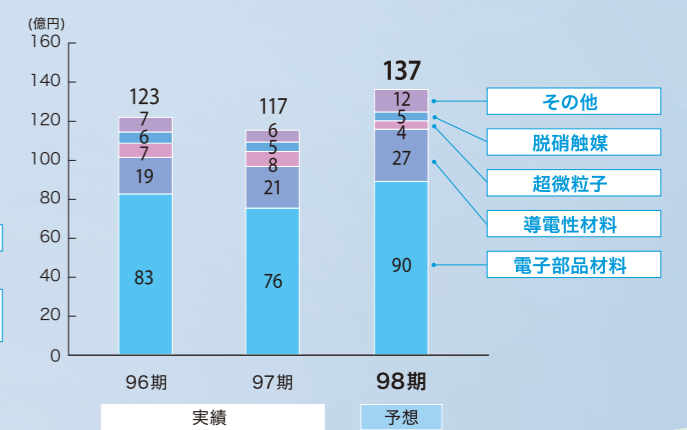
無機化学事業 高機能・高付加価値品販売比率



機能材料

- 電子部品材料ではPC・タブレットや5G(第5世代移動通信システム)関連で需要が拡大している積層セラミックコンデンサー向けに販売拡大
- 導電性材料は帯電防止機能を必要とする自動車バンパー向けで拡大

機能材料 販売計画

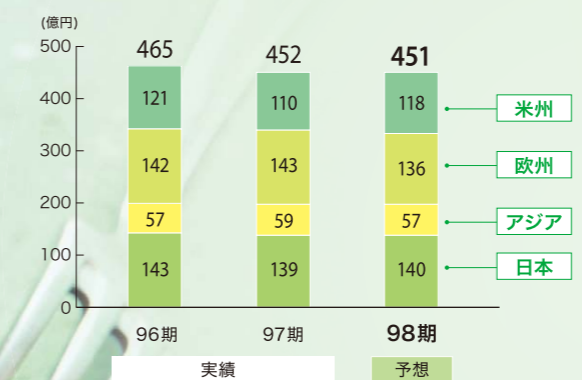


世界トップクラスの 技術開発力で世界の農産物の安定供給を支える

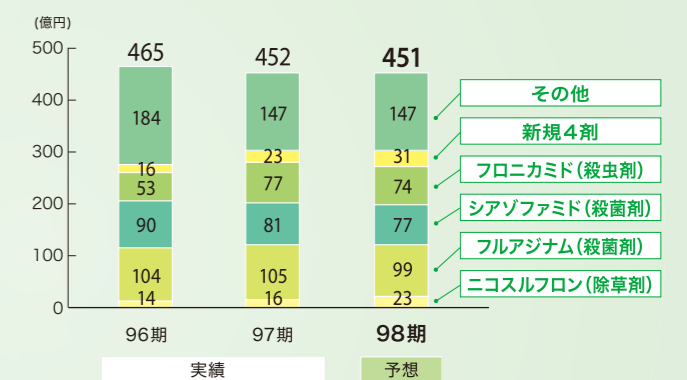
農薬

- ジェネリック品との競争激化
農薬大国ブラジルを起点とした農薬市場の伸展により既存剤の販売維持、拡大
- 新規4剤は主要国で販売拡大

農薬 地域別販売計画



農薬 剤別販売計画



動物薬

- 犬用抗腫瘍剤の獣医師への適切な情報提供により、市場への浸透、更なる販売拡大
- 海外では、欧米での同剤の商業化に向けて開発を加速

経営指標

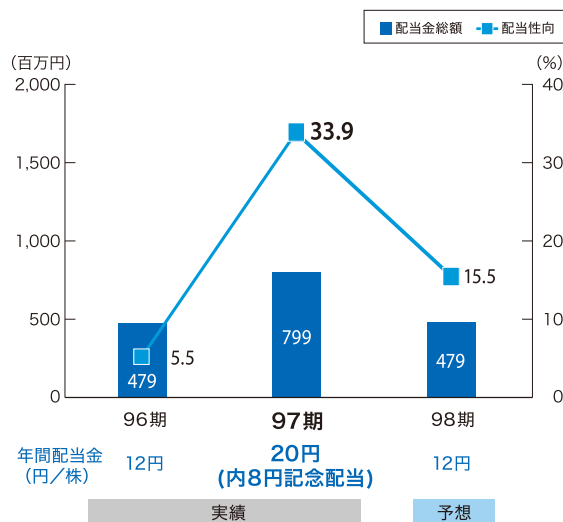
	96期実績	97期実績	98期予想
1株当たりの当期純利益	217.2円	59.0円	77.6円
自己資本利益率(ROE)	12.2%	3.1%	4.0%
総資本経常利益率(ROA)	6.8%	3.1%	2.6%
売上高経常利益率	10.5%	5.3%	4.6%
自己資本比率	44.7%	44.5%	43.2%
借入金依存度	29.4%	30.5%	34.1%
連単倍率	1.1	0.9	1.3

株主還元

1株当たり配当金 20円

当期の期末配当は、普通株式1株当たり20円(内8円は創立100周年の記念配当)を実施させていただきました。

- 企業価値の向上と株主のみなさまへの利益還元を経営の最重要政策のひとつと位置付けています。
- 配当は、業績動向、財務状況、将来の事業展開に必要な内部留保の充実等を総合的に勘案しながら業績に応じた安定的な配当の継続を基本としています。



会社概要

(2020年3月31日現在)

商号 石原産業株式会社
英文商号 ISHIHARA SANGYO KAISHA, LTD.
本社 〒550-0002 大阪市西区江戸堀一丁目3番15号
TEL: 06-6444-1451 (総務部)
創業 1920年9月10日
設立 1949年6月1日
資本金 43,420,548,178円
従業員数 1,106名
事業所 大阪本社・中央研究所・四日市工場・東京支店・中部支店・札幌営業所・仙台営業所・福岡営業所・アルゼンチン支店・シンガポール支店・北京駐在員事務所

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
基準日 定時株主総会・期末配当: 毎年3月31日
中間配当: 毎年9月30日
単元株式数 100株
公告の方法 電子公告の方法により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
(当社ホームページアドレス) <https://www.iskweb.co.jp>
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
特別口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社
(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

単元未満株式を保有されている株主さまへ

当社の株式は1単元が100株となっています。株主さまがご所有の単元未満株式(100株未満)につきましては、市場で売買できない、株主総会で議決権を行使できないなどの制約があります。単元未満株式をお持ちの場合は、買増制度、買取制度をぜひご利用ください。

支払期間経過後の配当金のお支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。



ホームページでは、IR情報等、株主のみなさまに有益な情報を多数発信しておりますのでご覧ください。

<https://www.iskweb.co.jp>



第5回
2010年-2020年

強くて、信頼される ケミカル・カンパニーへ

汎用品から高機能・高付加価値な製品へシフト。 超耐候性酸化チタン本格販売開始。

中国では約70社もの硫酸法メーカーが生産能力を拡大し、低価格を武器に日本やアジアなどで当社シェアを脅かしました。そうした中、2010年、独自の製法技術による「超耐候性酸化チタン」の本格販売を開始するなど、酸化チタンの高機能・高付加価値品へのシフトを図りました。

現在においても、酸化チタンは汎用品から高機能・高付加価値品への開発、販売に軸足を置いて展開しており、また、機能材料は需要の旺盛な電子部品材料や導電性材料製品の生産能力増強に注力しています。

ブラジル、インドなどでの農薬市場の開拓。 グローバル競争力を強化する。

世界的に食の安全・安心への関心が高まる中、より安全で効果の高い農薬が求められるようになりました。これにより農薬登録制度が厳しくなり、また、安価なジェネリック製品が台頭するなど、農薬業界は変化の時を迎えています。そうした中、今後農薬需要の伸びが見込まれるインド、中国およびタイに現地法人を設立、さらには世界最大の農薬市場

であるブラジルの農薬販売会社へ資本参加するなど、自社剤の普及拡大と販売強化に取り組んでいます。また、ジェネリック製品への対応として、農薬原体の生産拠点を国内から韓国、中国へ、そしてインドへと移行していくこととなりました。

2020年 創業100周年。これまでの感謝とともに、 これからもみなさまとより良い未来を目指していく。

近年では、無機化学事業の酸化チタン・機能材料、有機化学事業の農薬に続く「第三の柱の事業」として動物薬および医薬品を位置付けています。動物薬では、2018年9月に世界初となる犬用抗腫炎剤の国内製造販売承認を取得し、引き続き、欧米での同剤の商業化を目指すとともに、他のペット用薬剤の開発も進めています。医薬品では、バイオ医薬品「HVJ-E抗がん剤」の臨床試験を進めています。

2020年9月、当社は創業100周年を迎えます。すべてのステークホルダーへの感謝を胸に、これからも、逆境でも不屈の精神をもって世界を舞台に絶えず化学反応を起こし、新しい価値を提供し続けてまいります。

- ① 超耐候性酸化チタン「PFC105」
- ② ISK バイオサイエンスインディア社
- ③ 犬用抗腫炎剤「ブレンダ® Z」(日本全業工業株式会社が販売しています)

TOPICS

「つくばFC」とのスポンサー契約の締結について

茨城県つくば市を本拠とするサッカークラブ「つくばフットボールクラブ」(以下、つくばFC)とスポンサー契約を締結いたしました。

当社は、黒色遮熱顔料(SG-101)のスポーツ分野への取り組みとして、球技施設で利用される人工芝向けに、SG-101を使用した遮熱チップの展開をつくばFCの協力を得ながら進めております。

つくばFCのスポンサーとして、サポーターや地域のみなさまと一緒にチームの活動を応援するとともに、スポーツの発展と活性化に貢献できるよう努めてまいります。

なお、本スポンサー契約により、男子チーム(※関東サッカーリーグ1部所属)のユニフォームに、当社の社名ロゴがプリントされています。



<https://www.tsukuba-fc.com>